



平成23年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年11月5日

上場会社名 日本化成株式会社

上場取引所 東

コード番号 4007 URL <http://www.nkchemical.co.jp>

代表者 (役職名) 取締役社長

(氏名) 中村 英輔

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長

(氏名) 関 信哉

TEL 03-5540-5861

四半期報告書提出予定日 平成22年11月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

1. 平成23年3月期第2四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第2四半期	18,782	10.5	1,463	—	1,426	—	748	—
22年3月期第2四半期	17,000	△36.8	10	△99.1	△99	—	△66	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第2四半期	7.12	—
22年3月期第2四半期	△0.63	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第2四半期	36,547	13,073	35.6	123.95
22年3月期	36,075	12,569	34.7	119.04

(参考) 自己資本 23年3月期第2四半期 13,026百万円 22年3月期 12,510百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	2.00	2.00
23年3月期	—	0.00	—	—	—
23年3月期 (予想)	—	—	—	4.00	4.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	39,400	2.9	2,700	85.7	2,700	119.2	1,350	104.2	12.85

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、[添付資料]4ページ「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 _____）、除外 一社（社名 _____）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	23年3月期2Q	105,115,800株	22年3月期	105,115,800株
② 期末自己株式数	23年3月期2Q	26,372株	22年3月期	25,010株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	23年3月期2Q	105,090,058株	22年3月期2Q	105,092,593株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想（平成22年10月28日発表）の見直しは行っていません。本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項につきましては、四半期決算短信[添付資料]3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(第2四半期連結累計期間)	7
(第2四半期連結会計期間)	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	13

(説明資料) 平成23年3月期 第2四半期決算概要

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、新興国における需要拡大、国内政策効果等により概ね回復基調で推移しましたが、欧米経済の減速感、急激な円高による輸出環境の悪化等から、景気が足踏み状態となる等、景況感が変化しつつあります。

一方、先行きの見通しにつきましては、海外景気の下振れ懸念、急激な円高による需要減に加え、国内政策効果の終了等による需要の反動減といった景気の下押しリスク等、留意すべき諸要素を抱え、不透明感が強まるものと見込まれております。

このような状況の下、当社グループは、最終年度に入った3ヶ年の新中期経営計画「NKC-Plan2010」のアクションプログラムに沿って、各種の合理化、効率化、コストダウン、生産効率のアップ、販売数量の確保等、業績の向上に引き続き注力いたしました。

こうした中、当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績は、第1四半期に引き続き、機能化学品事業が全般的に堅調さを維持し、化成品事業も概ね底堅く推移する一方、無機化学品事業についても、主要顧客の需要回復継続等により持ち直しが続いたことから、前年同期に比べ増収・増益となりました。

具体的には、当第2四半期連結累計期間の売上高は、18,782百万円（前年同期比10.5%増）となりました。損益につきましては、営業利益は1,463百万円（前年同四半期は営業利益10百万円）、経常利益は1,426百万円（前年同四半期は経常損失99百万円）、四半期純利益は748百万円（前年同四半期は四半期純損失66百万円）となりました。

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

なお、前年同四半期との比較は、前年同四半期の数値を第1四半期連結会計期間から適用している新セグメント区分に組み替えて行っております。

(無機化学品事業)

硝酸をはじめとするアンモニア系製品は、主要顧客の需要が順調に回復したこと等により、販売数量、売上高とも増加しましたが、ゴム用カーボンブラックは、国内需要の伸び悩みにより、販売数量、売上高とも前年同期並みとなりました。合成石英粉は、前年度後半以降回復過程を辿り始めた半導体関連分野の需要増加傾向が今期もなお順調に継続していることにより、また、ディーゼル車脱硝用高品位尿素水（アドブルー）は、尿素SCRシステム搭載車走行車輦数の増加により、いずれも販売数量、売上高とも増加しました。

その結果、売上高は8,994百万円（前年同期比24.3%増）となりました。

(機能化学品・化成品事業)

タイヤ（ゴム、プラスチック架橋助剤）は、フッ素樹脂及びフッ素ゴム等従来向け用途に加え、太陽電池封止材向け需要が着実に伸張したことにより、販売数量、売上高とも大幅に増加しました。脂肪酸アマイド及び紫外線硬化性樹脂は、需要の回復等により、販売数量、売上高とも増加しました。電子工業用高純度薬品は、半導体市場向けは需要回復により販売数量、売上高とも増加しましたが、液晶パネル向けは市場競争激化等により販売数量、売上高とも減少し、全体として売上高は減少しました。

メタノールは、需要回復の遅れ等により販売数量は減少しましたが、原料高の影響を受け売上高は増加しました。ホルマリンは、需要の回復等により販売数量、売上高とも増加しましたが、木材加工用接着剤は、住宅産業の不振継続等の影響により販売数量、売上高とも減少しました。

その結果、売上高は7,061百万円（前年同期比5.4%増）となりました。

(エンジニアリング事業)

企業の設備投資抑制傾向継続の影響で一般プラント工事の受注が減少したこと等により売上高は1,315百万円（前年同期比16.5%減）となりました。

(その他事業)

貨物運送・荷役事業の売上高は前年同期並みとなりましたが、産業廃棄物処理関連業及び有機溶剤等の蒸留・精製業は処理量の減少により売上高が減少しました。

その結果、売上高は1,289百万円（前年同期比6.5%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末における総資産の残高は、前連結会計年度末に比し472百万円増加し、36,547百万円となりました。これは、主にたな卸資産等の増加が有形固定資産及び売上債権等の減少を上回ったことによるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末に比し32百万円減少し、23,474百万円となりました。これは、主に仕入債務及び流動負債のその他等が増加したものの、短期借入金等が減少したことによるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末に比し504百万円増加し、13,073百万円となりました。これは、主に四半期純利益による増加が支払配当金等による減少を上回ったことによるものであります。

この結果、自己資本比率は35.6%、1株当たり純資産は123円95銭となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、たな卸資産の増加及び短期借入金の返済等による支出が、税金等調整前四半期純利益及び減価償却費等による収入を上回り、その結果、資金残高は前連結会計年度末より95百万円減少（7.1%減）し、1,245百万円（前年同四半期比632百万円減）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、1,870百万円（前年同四半期比580百万円の収入増）となりました。これは、主に税金等調整前四半期純利益及び減価償却費等による収入が、たな卸資産の増加等による支出を上回ったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、447百万円（前年同四半期比703百万円の支出減）となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、1,514百万円（前年同四半期比2,162百万円の支出増）となりました。これは、主に短期借入金の返済及び配当金の支払いによる支出等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間の業績は、先に述べました通り、第1四半期に引き続き、機能化学品事業が全般的に堅調さを維持し、化成品事業も概ね底堅く推移する一方、無機化学品事業についても、主要顧客の需要回復継続等により持ち直しが続く中、各種の合理化、効率化、コストダウン、生産効率のアップ、販売数量の確保等の収益向上諸施策に注力した結果、営業利益、経常利益及び四半期純利益が、いずれも本年5月12日に発表した業績予想数値を上回る見通しとなりました。

一方、先行きの見通しにつきましては、先述の通り、海外景気の下振れ懸念、急激な円高による需要減に加え、国内政策効果の終了等による需要の反動減といった景気の下押しリスク等、留意すべき諸要素を抱え、不透明感が強まり、収益環境も非常に厳しくなることが想定されますが、上記収益の向上・確保に向けた諸施策を更に徹底推進することにより、平成23年3月期の最終的な通期連結業績は、営業利益、経常利益及び当期純利益のいずれもについて、本年5月12日に発表した業績予想数値を上回る見通しといたしました。

また、平成23年3月期の配当予想につきましては、上記平成23年3月期通期連結業績の見通しを踏まえ、1株あたり3円（期末、普通配当）から4円（期末、普通配当）に修正することといたしました。

詳細につきましては、平成22年10月28日に発表しました「業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

(簡便な会計処理)

繰延税金資産の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックスプランニングを利用する方法により算定しております。

(特有の会計処理)

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

(会計処理基準に関する事項の変更)

資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、当第2四半期連結累計期間の営業利益及び経常利益は0百万円減少し、税金等調整前四半期純利益は159百万円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は163百万円であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,245	1,340
受取手形及び売掛金	10,271	10,412
商品及び製品	2,499	2,015
仕掛品	1,141	311
原材料及び貯蔵品	1,228	1,411
その他	697	611
貸倒引当金	△8	△9
流動資産合計	17,073	16,091
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,890	4,010
機械装置及び運搬具（純額）	3,789	4,110
土地	6,941	6,941
建設仮勘定	465	467
その他（純額）	223	229
有形固定資産合計	15,308	15,757
無形固定資産		
その他	78	92
無形固定資産合計	78	92
投資その他の資産		
その他	4,139	4,187
貸倒引当金	△51	△52
投資その他の資産合計	4,088	4,135
固定資産合計	19,474	19,984
資産合計	36,547	36,075

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,817	5,071
短期借入金	10,797	11,997
未払法人税等	506	305
賞与引当金	347	344
その他	1,692	1,482
流動負債合計	19,159	19,199
固定負債		
長期借入金	1,124	1,227
退職給付引当金	2,852	2,882
役員退職慰労引当金	80	102
その他	259	96
固定負債合計	4,315	4,307
負債合計	23,474	23,506
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,593	6,593
利益剰余金	6,460	5,922
自己株式	△5	△5
株主資本合計	13,048	12,510
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△22	△0
評価・換算差額等合計	△22	△0
少数株主持分	47	59
純資産合計	13,073	12,569
負債純資産合計	36,547	36,075

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
売上高	17,000	18,782
売上原価	14,028	14,402
売上総利益	2,972	4,380
販売費及び一般管理費	2,962	2,917
営業利益	10	1,463
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	118	77
持分法による投資利益	8	11
受取賃貸料	—	31
その他	65	27
営業外収益合計	192	146
営業外費用		
支払利息	86	67
減価償却費	158	75
その他	57	41
営業外費用合計	301	183
経常利益又は経常損失(△)	△99	1,426
特別損失		
減損損失	20	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	159
ゴルフ会員権評価損	—	15
特別損失合計	20	174
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△119	1,252
法人税、住民税及び事業税	24	534
法人税等調整額	△75	△19
法人税等合計	△51	515
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△68	737
少数株主損失(△)	△2	△11
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△66	748

(第2四半期連結会計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)
売上高	9,318	10,001
売上原価	7,509	7,595
売上総利益	1,809	2,406
販売費及び一般管理費	1,509	1,457
営業利益	300	949
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	81	64
持分法による投資利益	3	7
その他	28	27
営業外収益合計	112	98
営業外費用		
支払利息	42	32
減価償却費	80	19
その他	27	19
営業外費用合計	149	70
経常利益	263	977
特別損失		
ゴルフ会員権評価損	—	15
特別損失合計	—	15
税金等調整前四半期純利益	263	962
法人税、住民税及び事業税	△1	245
法人税等調整額	104	142
法人税等合計	103	387
少数株主損益調整前四半期純利益	160	575
少数株主利益又は少数株主損失(△)	4	△5
四半期純利益	156	580

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△119	1,252
減価償却費	1,148	916
減損損失	20	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	159
退職給付引当金の増減額(△は減少)	66	△30
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△1	△22
賞与引当金の増減額(△は減少)	△23	3
固定資産除却損	12	4
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1	△2
受取利息及び受取配当金	△119	△77
支払利息	86	67
持分法による投資損益(△は益)	△8	△11
ゴルフ会員権評価損	—	15
売上債権の増減額(△は増加)	229	141
たな卸資産の増減額(△は増加)	△282	△1,131
その他の流動資産の増減額(△は増加)	92	△76
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,160	746
その他の流動負債の増減額(△は減少)	926	224
その他	3	7
小計	869	2,185
利息及び配当金の受取額	128	86
利息の支払額	△87	△69
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	380	△332
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,290	1,870
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,113	△434
有形固定資産の売却による収入	11	3
無形固定資産の取得による支出	△41	△4
投資有価証券の取得による支出	△1	△1
短期貸付金の回収による収入	1	—
長期前払費用の取得による支出	△7	△8
その他	—	△3
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,150	△447
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	200	△1,200
長期借入れによる収入	1,000	—
長期借入金の返済による支出	△343	△103
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△209	△210
少数株主への配当金の支払額	—	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	648	△1,514
現金及び現金同等物に係る換算差額	△6	△4
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	782	△95
現金及び現金同等物の期首残高	1,095	1,340
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,877	1,245

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第2四半期連結会計期間（自平成21年7月1日 至平成21年9月30日）

	無機化学品 事業 (百万円)	機能化学 品・化成品 事業 (百万円)	エンジニア リング事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	3,986	3,650	952	730	9,318	-	9,318
(2)セグメント間の内部売上高又は 振替高	5	14	14	8	41	(41)	-
計	3,991	3,664	966	738	9,359	(41)	9,318
営業利益又は営業損失(△)	△83	337	51	25	330	(30)	300

前第2四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年9月30日）

	無機化学品 事業 (百万円)	機能化学 品・化成品 事業 (百万円)	エンジニア リング事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	7,274	6,760	1,575	1,391	17,000	-	17,000
(2)セグメント間の内部売上高又は 振替高	10	28	24	17	79	(79)	-
計	7,284	6,788	1,599	1,408	17,079	(79)	17,000
営業利益又は営業損失(△)	△520	544	14	28	66	(56)	10

(注) 1. 事業区分の方法

当社の事業区分の方法は、経営管理上の販売区分によっております。

2. 各事業区分の主要製品

- (1) 無機化学品事業……………アンモニア系製品、ゴム用カーボンブラック、合成石英粉
- (2) 機能化学品・化成品事業……メタノール、ホルマリン、接着剤、アマイド、タイヤ、
機能性モノマー、電子工業用高純度薬品
- (3) エンジニアリング事業……………プラント設計・建設・修繕、建築、土木
- (4) その他事業……………貨物運送・荷役業、サービス関連業（石油販売業、熱供給業、
産業廃棄物処理関連業等）

[所在地別セグメント情報]

前第2四半期連結会計期間（自平成21年7月1日 至平成21年9月30日）及び前第2四半期連結累計期間
（自平成21年4月1日 至平成21年9月30日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店はないので、該当事項はありません。

[海外売上高]

前第2四半期連結会計期間（自平成21年7月1日 至平成21年9月30日）及び前第2四半期連結累計期間
（自平成21年4月1日 至平成21年9月30日）

海外売上高は連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

[セグメント情報]

1. 報告セグメントの概要

当第2四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年9月30日）及び当第2四半期連結会計期間（自平成22年7月1日 至平成22年9月30日）

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、製品・サービス別の製造販売体制を置き、取り扱う製品・サービスについて包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。したがって、当社は製造販売体制を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「無機化学品事業」、「機能化学品・化成品事業」、「エンジニアリング事業」の3つを報告セグメントとしております。

「無機化学品事業」は、アンモニア系製品、ゴム用カーボンブラック、合成石英粉を主要製品としております。「機能化学品・化成品事業」は、メタノール、ホルマリン、接着剤、アמיד、タイヤ、機能性モノマー、電子工業用高純度薬品を主要製品としております。「エンジニアリング事業」では、プラントの設計・建設・修繕、建築、土木を受注・施工しております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第2四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年9月30日）

	報告セグメント				その他 (百万円) (注)1	合計 (百万円)	調整額 (百万円) (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円) (注)3
	無機化学品 事業 (百万円)	機能化学 品・化成品 事業 (百万円)	エンジニア リング事業 (百万円)	計 (百万円)				
売上高								
(1) 外部顧客への 売上高	8,994	7,061	1,315	17,370	1,289	18,659	123	18,782
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高	-	18	47	65	120	185	△ 185	-
計	8,994	7,079	1,362	17,435	1,409	18,844	△ 62	18,782
セグメント利益 又は損失(△)	732	730	4	1,466	△ 28	1,438	25	1,463

当第2四半期連結会計期間（自平成22年7月1日 至平成22年9月30日）

	報告セグメント				その他 (百万円) (注)1	合計 (百万円)	調整額 (百万円) (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円) (注)3
	無機化学品 事業 (百万円)	機能化学 品・化成品 事業 (百万円)	エンジニア リング事業 (百万円)	計 (百万円)				
売上高								
(1) 外部顧客への 売上高	4,785	3,602	878	9,265	667	9,932	69	10,001
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高	-	9	30	39	54	93	△ 93	-
計	4,785	3,611	908	9,304	721	10,025	△ 24	10,001
セグメント利益 又は損失(△)	513	415	31	959	△ 1	958	△ 9	949

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、貨物運送・荷役事業、サービス関連業（熱供給業、有機溶剤等の蒸留・精製業、産業廃棄物処理関連業等）を含んでおりません。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額の内容は、以下のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間（百万円）	当第2四半期連結会計期間（百万円）
売上高	123	69
売上原価	△ 14	△ 32
全社費用※	△ 84	△ 46
合計	25	△ 9

※全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

4. 追加情報

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

(参考情報)

前第2四半期連結累計期間及び前第2四半期連結会計期間の事業の種類別セグメント情報を新セグメント区分に組み替えると以下の通りとなります。

前第2四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年9月30日）

	報告セグメント				その他 (百万円)	合計 (百万円)	調整額 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)
	無機化学品 事業 (百万円)	機能化学 品・化成品 事業 (百万円)	エンジニア リング事業 (百万円)	計 (百万円)				
売上高								
(1) 外部顧客への 売上高	7,236	6,698	1,575	15,509	1,378	16,887	113	17,000
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高	-	19	45	64	102	166	△ 166	-
計	7,236	6,717	1,620	15,573	1,480	17,053	△ 53	17,000
セグメント利益 又は損失(△)	△ 604	405	14	△ 185	65	△ 120	130	10

前第2四半期連結会計期間（自平成21年7月1日 至平成21年9月30日）

	報告セグメント				その他 (百万円)	合計 (百万円)	調整額 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)
	無機化学品 事業 (百万円)	機能化学 品・化成品 事業 (百万円)	エンジニア リング事業 (百万円)	計 (百万円)				
売上高								
(1) 外部顧客への 売上高	3,965	3,613	952	8,530	725	9,255	63	9,318
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高	-	10	25	35	60	95	△ 95	-
計	3,965	3,623	977	8,565	785	9,350	△ 32	9,318
セグメント利益 又は損失(△)	△ 98	279	51	232	48	280	20	300

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

平成23年3月期 第2四半期決算概要

日本化成株式会社

1. 連結業績

[単位:百万円]

	当第2四半期 連結累計期間 (H22.4.1- H22.9.30)	前年同四半期 連結累計期間 (H21.4.1- H21.9.30)	増減	
			金額	率
売上高	18,782	17,000	1,782	10.5%
営業利益	1,463	10	1,453	-
金融収支	10	33	△23	※1
その他営業外 持分法損益	△58	△150	92	※2
経常利益	1,426	△99	1,525	-
特別損失	△174	△20	△154	※3
税引前利益	1,252	△119	1,371	-
四半期純利益	748	△66	814	-
1株当り四半期純利益	7円12銭	△0円63銭		

※1 金融収支の内訳

	H22/9	H21/9	差
受取利息・配当金	77	119	△42
支払利息	△67	△86	19

※2 その他営業外差異主な内訳

	H22/9	H21/9	差
減価償却費	△75	△158	83

※3 特別損失主な内訳

	当第2 四半期	前年同 四半期
資産除去債務会計適用影響額等	△174	-
減損損失	-	△20
計	△174	△20

①セグメント別売上高（連結）

		当第2四半期 連結累計期間 (H22.4.1- H22.9.30)	前年同四半期 連結累計期間 (H21.4.1- H21.9.30)	増減※	
報告 セグ メン ト	無機化学品	8,994	7,236	1,758	アモニア系製品は主要顧客の需要回復等により、無機材料は前年度後半以降回復過程を辿り始めた半導体関連分野の需要増加傾向がなお順調に継続していることにより、それぞれ販売数量増となり対前年同期比増収
	機能化学品・化成品	7,061	6,698	363	ゴム架橋助剤及び太陽電池封止材向けタックの伸張、その他機能化学品及び化成品の需要回復等により販売数量増となり対前年同期比増収
	エンジニアリング	1,315	1,575	△260	企業の設備投資抑制傾向継続の影響で一般プラント工事の受注が減少したこと等により対前年同期比減収
その他	1,289	1,378	△89	貨物運送・荷役事業は前年同期並みとなったものの、産業廃棄物処理関連業及び有機溶剤等の蒸留・精製業の処理量減少等により対前年同期比減収	
調整額	123	113	10	「セグメント情報等の開示に関する会計基準」の適用に伴い、上記セグメントに属さない電気・蒸気等のコホート部門の売上高を調整額として表示	
計	18,782	17,000	1,782		

②セグメント別営業利益（連結）

		当第2四半期 連結累計期間 (H22.4.1- H22.9.30)	前年同四半期 連結累計期間 (H21.4.1- H21.9.30)	増減※	
報告 セグ メン ト	無機化学品	732	△604	1,336	アモニア系製品及び無機材料の需要回復による販売数量増等に伴い対前年同期比増収
	機能化学品・化成品	730	405	325	ゴム架橋助剤及び太陽電池封止材向けタック、その他機能化学品及び化成品の販売数量増に伴い対前年同期比増収
	エンジニアリング	4	14	△10	企業の設備投資抑制傾向継続の影響で一般プラント工事の受注が減少したこと等に伴い対前年同期比減収
その他	△28	65	△93	貨物運送・荷役事業の燃料油コスト上昇、産業廃棄物処理関連業及び有機溶剤等の蒸留・精製業の処理量減少等に伴い対前年同期比減収	
調整額	25	130	△105	「セグメント情報等の開示に関する会計基準」の適用に伴い、上記セグメントに属さない電気・蒸気等のコホート部門の損益を調整額として表示	
計	1,463	10	1,453	(含みらいプロジェクト開発費用 H22第2Q △60 H21第2Q △56)	

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

※前年同期との比較は、前年同期の数値を第1四半期から適用する新セグメント区分に組み替えて行っております。

2. 連結比較貸借対照表

	当第2四半期 連結会計期間末 (H22. 9. 30)	前連結会計 年度末 (H22. 3. 31)	増減		当第2四半期 連結会計期間末 (H22. 9. 30)	前連結会計 年度末 (H22. 3. 31)	増減
現預金	1,245	1,340	△ 95	有利子負債	11,921	13,224	△ 1,303
棚卸資産	4,868	3,737	1,131	営業債務他	11,553	10,282	1,271
営業債権他	10,960	11,014	△ 54	株主資本	13,048	12,510	538
固定資産(有形・無形)	15,386	15,849	△ 463	評価・換算差額等	△ 22	△ 0	△ 22
投融資等	4,088	4,135	△ 47	少数株主持分	47	59	△ 12
資産合計	36,547	36,075	472	負債・純資産合計	36,547	36,075	472

(注) 自己資本＝純資産－少数株主持分

D/Eレシオ＝有利子負債／自己資本

自己資本	13,026	12,510	516
自己資本比率	35.6%	34.7%	0.9%
有利子負債	11,921	13,224	△ 1,303
D/Eレシオ	0.92	1.06	△ 0.14

3. 連結キャッシュ・フロー

(参考)

	当第2四半期 連結累計期間 (H22. 4. 1- H22. 9. 30)	税引前利益1,252、減価償却費916、棚卸資産の増加△1,131、 仕入債務の増加他833 設備投資に伴う支出△434他△13 借入金の返済△1,303、配当金の支払他△211	前年同四半期 連結累計期間 (H21. 4. 1- H21. 9. 30)
営業活動によるCF	1,870		1,290
投資活動によるCF	△447		△1,150
フリー・キャッシュ・フロー	1,423		140
財務活動によるCF	△1,514		648
現金及び現金同等物に係る 換算額	△4		△6
現金及び現金同等物の増減	△95		782

4. 連結通期業績予想

(平成22年10月28日発表)

	23年3月期 予想	22年3月期 実績	増減	
			金額	率
売上高	39,400	38,301	1,099	2.9%
営業利益	2,700	1,454	1,246	85.7%
経常利益	2,700	1,232	1,468	119.2%
特別損益	△ 450	△ 152	△ 298	※
税引前利益	2,250	1,080	1,170	108.3%
当期純利益	1,350	661	689	104.2%
1株当たり当期純利益	12円85銭	6円29銭		
1株当たり配当金(期末のみ)	4円	2円		

※特別損益(予想)の主な内訳

	23年3月期 予想	22年3月期 実績
資産除去債務会計適用影響額等	△ 174	-
固定資産処分損他	△ 276	△ 28
減損損失	-	△ 70
臨時償却費	-	△ 54
計	△ 450	△ 152

①セグメント別売上高(連結)

		23年3月期 予想	22年3月期 実績	増減	
報告セグメント	無機化学品	17,900	16,391	1,509	アモニア系製品及び無機材料の販売数量増等により増収
	機能化学品・化成品	14,400	13,870	530	ゴム架橋助剤及び太陽電池封止材向けタック、その他機能化学品及び化成品の需要回復等により販売数量増となり増収
	エンジニアリング	4,300	5,002	△ 702	一般プラント工事受注減により減収
その他		2,600	2,800	△ 200	貨物運送・荷役事業、産業廃棄物処理関連業及び有機溶剤等の蒸留・精製業の減収
調整額		200	238	△ 38	
計		39,400	38,301	1,099	

②セグメント別営業利益(連結)

		23年3月期 予想	22年3月期 実績	増減	
報告セグメント	無機化学品	1,200	△ 163	1,363	アモニア系製品及び無機材料の販売数量増等に伴い増益
	機能化学品・化成品	1,400	1,024	376	ゴム架橋助剤及び太陽電池封止材向けタック、その他機能化学品及び化成品の販売数量増に伴い増益
	エンジニアリング	50	286	△ 236	一般プラント工事受注減に伴い減益
その他		△ 50	137	△ 187	貨物運送・荷役事業、産業廃棄物処理関連業及び有機溶剤等の蒸留・精製業の減収に伴い減益
調整額		100	170	△ 70	
計		2,700	1,454	1,246	